

第10回日本情報オリンピック 日本代表選手選考会について

IOI2011 日本代表選手選考基準

春季トレーニング合宿の代替措置として、4月23,24日と5月4,5日に計4回の競技を実施します。競技1~3では3問、競技4では4問が出題されます。どの問題も100点満点で合計1300点満点となります。4回の競技の合計点の上位4名をIOI2011日本代表選手とします。

合計点が同点のため4位以内の代表候補者が5名以上になった場合は、同点の候補者の中で本選の順位が上位の者から代表とします。ただし、本選の成績を参考にするのは同点が生じた場合だけです。

競技実施環境

競技で使用する機器・環境は以下の通りです。

使用できるプログラミング言語：C, C++ (Java は使用できません)

使用できる機器・ソフトウェア：本委員会が用意した機器のみ使用できます。また、本委員会が事前に準備し使用を許可したソフトウェアのみ使用できます。具体的に使用できる機器・ソフトウェアについては、下記を参照してください。

ハードウェア

ノート型パーソナルコンピュータ 日本 HP ProBook 4520s

筐体: A4 ノート, CPU: Intel Core i5, 2.4GHz, メモリ: 2 GB, ハードディスク: 500 GB

本体ディスプレイ: 15.6 インチ液晶ディスプレイ (1366×768)

ソフトウェア

Ubuntu 10.10 (Windows 上で動作する VMWare のゲスト OS)

gcc/g++, gdb, Gnu Emacs, GVim, Kate, jEdit, C++ STL Document (英語),

これ以外にも仮想マシン内にインストールされているソフトウェアを使うことができます。IOI本番に合わせて英語版 OS で競技を行います。

仮想マシンの使用方法

Windows へのログインおよび仮想マシンへのログインはチューターが行います。

競技では仮想マシン内にインストールされているソフトウェアを自由に使うことができます。選手は仮想マシンで起動された Ubuntu から外に出ないでください。万が一、ログアウトしてしまった場合や、仮想マシンがフリーズした場合は、会場責任者の指示に従ってください。

STL のドキュメントが Ubuntu デスクトップ上の stl-docs/tech/stl/index.html から参照可能です (Ubuntu のデスクトップ上にもリンクがあります)。

プラクティスについて

競技に使用するノートパソコン・仮想マシンを使用して、解答作成・解答提出方法の確認ができます。エディタの使い方、コンパイルの方法、解答提出方法などに関する質問がありましたら、プラクティスの時間中にチューターか会場責任者に質問してください。

競技中の質問について

課題について質問やコメントがある場合は、質問票を提出することができます。競技開始後2時間以内に提出された質問には、

正しい 正しくない ノーコメント 課題の記述の中に答えはある 無効

のいずれかで答えます。2時間以上経過後も質問票を提出することはできますが、競技時間内に答えが返ってくるとは限りません。

得点通知・解析の時間について

競技終了後に競技サーバー上で競技結果を参照できるようになります。採点用入出力データを用いて、自分の提出したプログラムの動作確認を行うことができます。

競技結果について異議がある場合は抗議票を提出することができます。抗議票を提出できるのは得点通知・解析の時間のみです。得点通知・解析の時間終了後の抗議は認めません。

禁止事項

- ・選手は VMware から外に出ないでください。Windows や VMware の設定を変更しないでください。
- ・競技は、毎回、新しい仮想マシン上で行います。競技中にはプラクティスや以前の競技の際に作ったファイルを使用したり参照することはできません。
- ・競技中は本委員会が用意した機器と筆記用具以外のもの（携帯電話、電卓、参考書、ノート、辞書、個人所有のノートパソコン・キーボード・マウス・USB メモリなど）を使ったり、参照することはできません。

キーボードの設定について

Ubuntu のキーボード設定が US キーボードに切り替わってしまった場合は、画面上部のキーボードのアイコンをクリックして、Jpn (日本語キーボード) に切り替えてください。うまく切り替わらない場合は、一度 USA を選んでから Jpn に戻すとよいようです。

その他

- ・筆記用具は各自で持参してください。計算用紙は本委員会が用意したものを使用してください。
- ・競技終了後、競技結果を電子データ (html ファイルまたは PDF ファイル) で配布します。競技結果を持ち帰りたい人は USB メモリを持ってきてください。希望者は、競技終了後に自分が競技中に作成したソースを各自の USB メモリにコピーして持って帰ることができます。(競技用パソコンへの USB メモリの接続は、必ず、会場責任者の許可を得て行ってください。競技中に個人所有の USB メモリを無断で繋いだ場合は、違反行為とみなされ失格となります。)